白石小学校だより

山口市立白石小学校
第　５　号
２０１８．９．１発行

面倒なことは大切？
～日々の中で面倒なこととうまくつきあうと～

大人も子どもも･･･日々面倒くさいという気持ちと向かい合っています。人は誰しも放っておくと楽な方へ、先延ばしの方へと流れてしまいがちです。そうして「まあいいか」とやめになります。（この弱さも時にありだし、大切だとは思いますが･･･）

子どもであれば、脱いだ靴の始末に始まり、宿題、日課揃えなど、大人であれば、日々のやらなくてはいけない雑用、ちょっとした片づけ、メールやお世話になった方への返信や挨拶、今年こそはと決めた勉強やダイエットなども面倒であり、楽な方へと流れる代表のような決め事でしょうか。そのような面倒さは日々の日常生活や仕事、人間関係など、生活全ての中にありそうです。

ただ、**この面倒なことをきちんとすることは、自分のためのことであろうと、人のためのことであろうと、かけた手間以上のものが自分へ還って来るように思います。**
面倒なこととうまく付き合える人は、生活が整います。豊かになってきます。先を見通して、先のことを考えながら生活できるようになってきます。

逆に「面倒なこと」を放っておくと、必ず後で大きなツケとなって還ってきます。はきものを脱ぎっぱなし、日課そろえを忘れがち、部屋の片付けができない。他人へのお礼が面倒！謝罪は気が進まず遅れてしまう。時間や決まりごとが守れない。恐いのは習慣となり人格となることです。特に人間関係では、ささいなことでも、信頼を失ってしまいます。

今の私たちの社会や生活は便利なことがずっと普通である状況が続いています。意識をしておかないと、面倒という言葉でかたをつけたり、やらなくてよい理由を自分でつくったりと、自分本位で、その時のことだけを考える短絡的な考え方や言動が、次第に普通になってきます。

幼児期・学童期の課題のひとつに「じょうずに我慢できる」ことがあります。我慢はもともと、今の欲求満足を先延ばしにする能力であり、先の目標のために努力する能力です。

今のコンビニ（便利・効率的・ハイサービス提供…）社会にずっと浸かっている私たちに大切な能力！「面倒なこととうまくつきあう力」を、まずは自分から、そして子どもたちにもちょっとずつでもつけてやりたいですね。

２学期が始まります。面倒なことに少し時間をかけてみようと思います。

校　長　　藤　永　靖　彦

〇先日のＰＴＡ作業は本当にありがとうございました。校内が見違えるようにきれいになりました。
〇まだまだ残暑が厳しそうです。2 学期スタートは特に熱中症予防に向けた取組や見直しを進めます。健康観察や暑さならし、給水、日かげづくり、休憩室など、皆様からのお知恵やご意見をいただき、ＰＴＡの運営委員会でも協議しながら、まずは子どもたちの安心・安全に努めたいと思います。